

「根の研究」のバックナンバーについて

「根の研究」のバックナンバーの在庫は、以下のようになっております。すでにすべての号が揃うのは第2巻と今年度のみとなっております。今後、増刷する予定はありません。日本の根の研究史に係る重要な一次資料でありますので、是非この機会にお求め下さい。なお、事務局の労力を軽減するために巻単位の取り扱いとさせていただきますが、その代り、若干の値引きをさせていただきます。ファックスあるいは電子メールで必要な巻をお知らせ下さい。在庫を確認後、お送り致しますので、到着後、郵便振替（会費と同じ口座）で代金をお送り下さい。

第1巻：残り11セット（4号欠）＝ 500円
第2巻：残り34セット（全号揃）＝ 1000円
第3巻：残り19セット（1号欠）＝ 1000円
第4巻：残り19セット（3号欠）＝ 1000円

作物根コロキウム(9)に参加して

森田茂紀（東京大学大学院農学生命科学研究科）

1996年10月3日、秋田大学で開催された第202回日本作物学会講演会における小集会の一つとして、作物根コロキウム(9)を開催し、座長を務めた。今回は不耕起栽培をテーマに、以下のお二人の方々に話題提供をお願いした。

佐藤照男（秋田県立農業短期大学）「不耕起水田の土壌間隙構造とその機能」
辻 博之（農業研究センター）「不耕起畑の根の特徴」

佐藤氏からは水田における土壌、また辻氏からは畑における作物の根に着目したお話を頂いたため、議論に入っても相互に議論が噛みあうことが多く、活発な意見の交換が行われた。一般講演終了後にも係らず、参加者は約30名であった。

稲作と根系に関する国際ワークショップの開催と イネの根に関する国際ワーキンググループの発足

阿部 淳（東京大学大学院農学生命科学研究科）

私たちはトヨタ財団からの研究助成を受けて、1995年11月から1997年10月までの2年間の予定で、「環太平洋地域における環境保全型・低投入持続性イネ多収栽培確立のための根系の戦略的管理に関する国際共同研究」という長いタイトルを持つプロジェクトを進めている。このプロジェクトの目的は、異なる生態条件のもとで、異なる遺伝的バックグラウンドを持ったイネ品種を、異なる様式で栽培した場合の根系の実態調査を行ない、根系管理について議論することである。